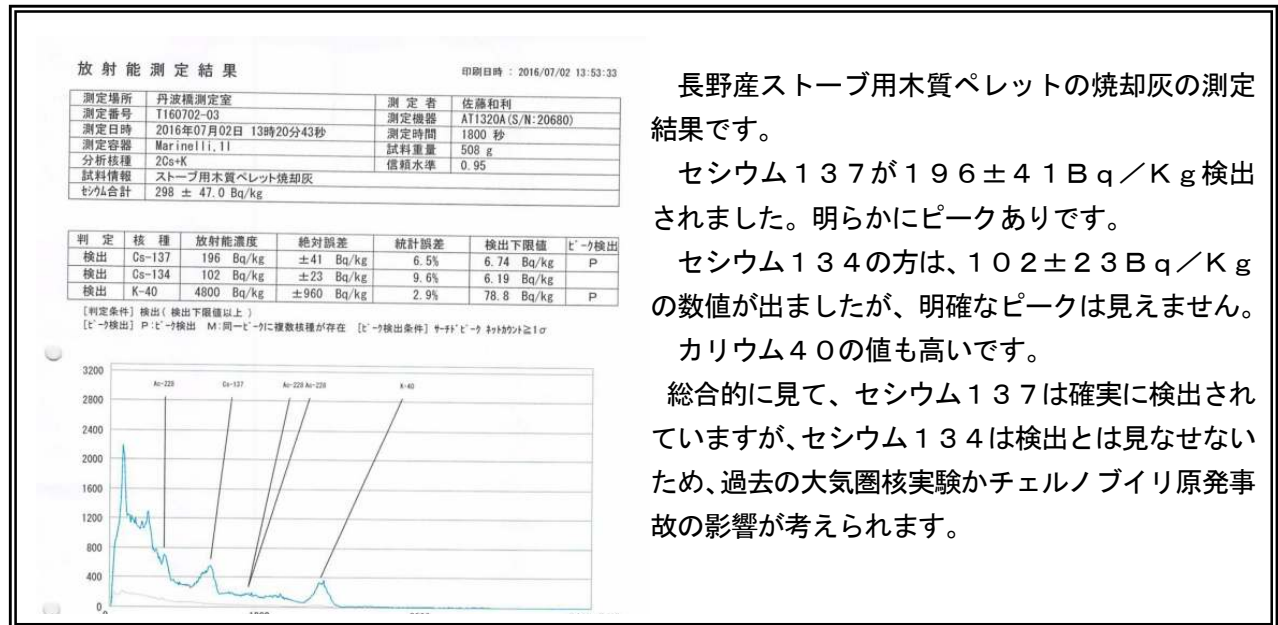




気になる測定結果

【ストーブの灰からセシウム137を検出】

7月2日に測った長野産ストーブ用木質ペレットと、その焼却灰の結果は、興味深いものになりました。



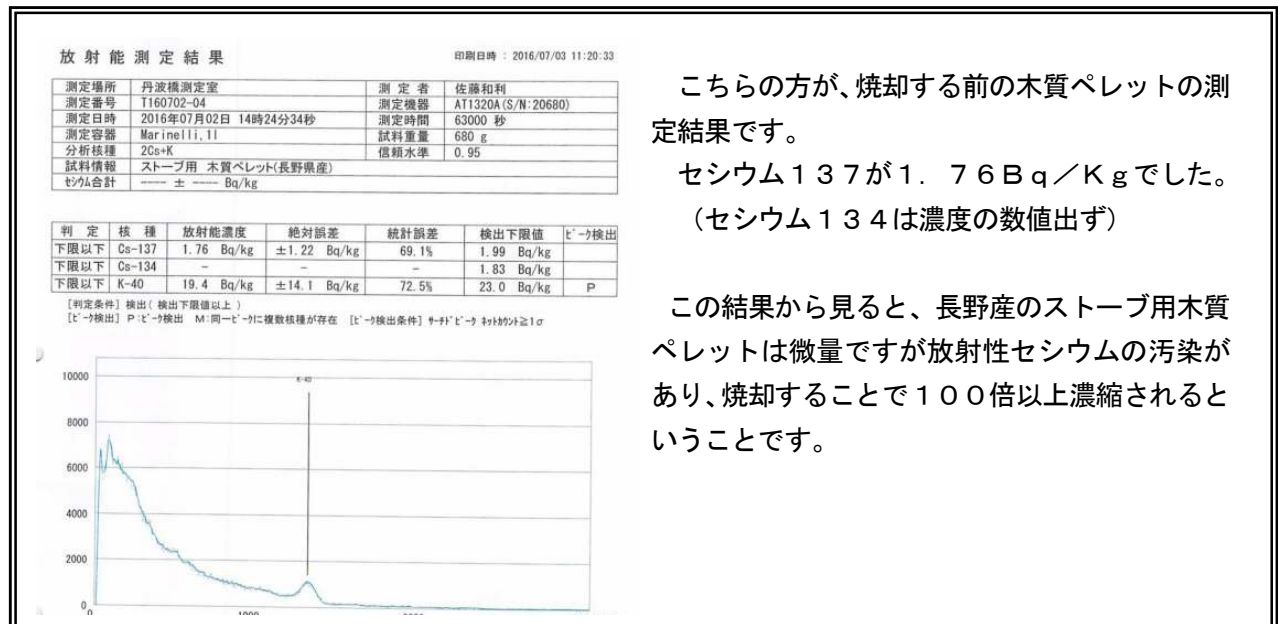
長野産ストーブ用木質ペレットの焼却灰の測定結果です。

セシウム137が196±41Bq/Kg検出されました。明らかにピークありです。

セシウム134の方は、102±23Bq/Kgの数値が出ましたが、明確なピークは見えません。

カリウム40の値も高いです。

総合的に見て、セシウム137は確実に検出されていますが、セシウム134は検出とは見なせないため、過去の大気圏核実験がチェルノブイリ原発事故の影響が考えられます。



こちらの方が、焼却する前の木質ペレットの測定結果です。

セシウム137が1.76Bq/Kgでした。(セシウム134は濃度の数値出ず)

この結果から見ると、長野産のストーブ用木質ペレットは微量ですが放射性セシウムの汚染があり、焼却することで100倍以上濃縮されるということです。

この2つの測定結果を見て、私は以前から被災地のがれき処理の問題でも、焼却という方法は最悪の処理方法だと言ってきましたが、あらためてそう感じました。わざわざ濃縮して危険を高める必要があるのでしょうか？

灰を測定するとき、私は吸い込まないように防護して、マリネリ容器につめて測りましたが、一般家庭では普通に処理されているのでしょうか。測定依頼者の方は、思いがけない結果に、「このストーブ、これからどうしよう」と悩んでおられました。測ってみなければ、わからないことでした。(佐藤)